

第16回 沖縄県のがん対策に関するタウンミーティング 報告 テーマ『沖縄県がん対策推進計画(第2次)中間評価』について

1. 日 時:平成27年8月8日(土)13:00~16:00
2. 場 所:浦添市てだこホール マルチメディア学習室
3. 参加人数:合計40名(一般20名、医療関係者 11名、政党・自治体関係者6名、マスコミ関係者3名)

4. プログラム

司会:井岡 亜希子(琉球大学医学部附属病院がんセンター 特命助教)

第1部:講演会

「患者目線の情報発信～市民・行政・医療の協働により、みんなの役に立つがん情報の収集・提供～」
濱本 満紀 氏(NPO法人 がんと共に生きる会 副理事長・前 厚生労働省がん対策推進協議会委員)

第2部:タウンミーティング

・講演

「中間評価に対する沖縄県の基本方針について」

国吉 秀樹 氏(沖縄県保健医療部 保健衛生統括監)

「中間評価の意義について」

埴岡 健一 氏(東京大学 公共政策大学院医療政策教育・研究ユニット 特任教授)

「患者目線の中間評価について」

天野 慎介 氏(一般社団法人 グループ・ネクサス・ジャパン 理事長・一般社団法人 全国がん患者団体連合会 理事長)

「中間評価作業について」

増田 昌人(琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長・診療教授)

「国の中間評価について」

東 尚弘 氏(国立がん研究センター がん対策情報センター がん政策科学研究部長)

・総合討論

(パネリスト)

濱本 満紀 氏、埴岡 健一 氏、天野 慎介 氏、渡邊 清高 氏(帝京大学腫瘍内科 准教授)、
宮里 浩 氏(那覇市立病院がん診療連携室 室長)、増田 昌人

5. ご意見シート集計

ご意見シート回答者数:17名

【問1】第2次沖縄県がん対策推進計画について

1. 知っている:8名 2. 知らない:9名

【問2】第2次沖縄県がん対策推進計画の内容について

1. とても満足:0名 2. 満足:1名 3. ふつう:2名 4. すこし不満:0名 5. 不満:1名
6. わからない:1名 ※無回答:3名

【問3】特に今回興味のある分野について(1人3分野まで選択):49件回答

分 野	件数	割合
がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成及び確保	10	20%
がんの教育・普及啓発	8	16%
がん患者等関係者への支援	6	12%
がんの予防	5	10%
緩和ケアの推進	4	8%
がん患者の就労を含めた社会的な問題	4	8%
がんの早期発見	3	6%
離島及びへき地におけるがん医療の確保及びがん患者等関係者への支援	3	6%
在宅医療の推進	2	4%
小児がん	2	4%
地域の医療提供体制の推進	1	2%
がん登録	1	2%

※「興味のある分野」の困っていること・改善する方法

・がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成及び確保

困っていること	改善する方法
医療関係者ですが、入院中の患者に対してスクリーニングされたケースはカンファに上がり、緩和ケアチームの介入はされるものの、医療的問題がなければ心理的介入があまりされない状況。多忙なことや医療スタッフの対応への戸惑い、スキルの不足もあるので、専門的な育成が必要。	拠点病院が主催し、県内の研修会の充実や情報共有が必要。
離島における医者不足。	沖縄県内で、医師研修終了後、2年間は各離島に行くことを義務化。
ネットで見ると、私の病名「肝内胆管がん」の治療に、ある病院では化学療法以外に、一時的肝動脈塞栓術、コータックという方法を試みているが、県内ではやっていない。	県内1ヶ所でも良いから、そういう治療をやってくれたら助かる。(移動に伴う身体に対する負担、経済的負担)
専門医が少ないと感じました。色々な不安を先生に聞いても、大丈夫としか答えてくれないことがあります(「どう大丈夫なのか」、何を根拠に大丈夫と言っているのか)。先生は忙しいとは思いますが、アフターケアもきちんと専門の方がいて頂いたら、もっと安心して治療できると思いました。	
	医療養成において、体についての専門知識を基にしなが、人間の精神的な面に対して、心からの理解のもてる教育が必要。
情報が無い。	

・がんの教育・普及啓発

困っていること	改善する方法
元気でピンピンしているがん患者がいることがわからないようで、困る時がある。	医療の進歩のおかげで、健康ながん患者がいることを知ってほしい。
患者さんの痛みが医療に届かない問題がある。	医療教育として市民向けに公開講座等を積極的に行ってほしい。
例えば乳Caでは、健診時に自己接触法を教育することができれば、早期発見ができるようになるのに、それについてお金がついてこない！	健診会場にDVDを置く～専門スタッフに直接習えるまでレベルを分けてお金を払ってくれたら、政策誘導されると思われる。 教育行政とのタイアップが必要。

・がん患者等関係者への支援

困っていること	改善する方法
自分と同じ病名の人が県内に何人いるのか、今までその病名の人とはどんな状態だったのか、全く知らない。死んでるのか、生きてるのか。私1人がこの病気にかかっている気がしてならない。その人と情報交換したい。	病名ごとの統計。患者のその後の追跡調査。
なかなか病院に足を運びにくい。相談センターはどうやって連絡したらいいのか？がん拠点病院には、どうやって「がん相談」をしたらいいのか？	
がん患者の悩み、思っていることなど、患者目線でインターネットや情報誌などを発行してほしい。自分だけが悩み感じて(考えて)いるという不安を少しでも良くしてほしい。	

・がんの予防

困っていること	改善する方法
健診単価が安いのに、業務負担が高い。「どうせ健診じゃん」ということでスタッフ投入が少ない。	予防に勝るものはないということを示すために、ちゃんと費用を出してほしい。
健康診断受診が低いと聞いています。	市町村からの健康診断と会社等での健康診断のデータを取る。

・がん患者の就労を含めた社会的な問題

困っていること	改善する方法
がん患者さんが産業医、衛生管理者に相談してこないこと。	病院等、相談窓口の方々に、「就労しているなら、会社の担当産業医、衛生管理者に相談してごらん。」と伝えてくれるだけでもちがうと思います。
以前の講演会に参加した時、勤める時は「がん患者でした。」とはっきり言おう！と思いましたが、やはりそれがネックで採用してもらえないのでは？とか考えると不安です。治療後仕事をしていないので、ちゃんとできるのか、いざ体調が悪くなったら・・・と悪いことを考えてしまいます。	

・離島及びへき地におけるがん医療の確保及びがん患者等関係者への支援

困っていること	改善する方法
交通費の助成を多めに。	行政の支援が必要。
・島には、緩和ケア病棟やホスピスが無い。ホスピスを希望したら、家族や友人と離れてしまう。 ・治療で本島に渡る時、交通費や滞在費がかかる。体調によっては、付添いが必要で、2倍の交通費がかかる。1ヶ月に2回、4回と通院することもある。家族が入院すると、病院のそばのウィークリーマンションを月11万で借りたりする。治療費、交通費、滞在費と負担が大きい。	・島に緩和病棟かホスピスを作ってほしい。 ・拠点病院、支援病院、診療病院、国立沖縄病院のそばに、ファミリーハウスを作ってほしい。ガジュマルの家を、大人の患者の家族も泊まれるように拡大してほしい。渡航費の助成にも力を入れてほしい。 ・応援診療、人材交流、ネットによる診療連携で、島でも専門の先生の診療が受けられるようにしてほしい。長期的には島に専門の先生を配置できるように人材育成をしてほしい。医師不在がおこることのないようにしてほしい。
患者・家族が通院の際の旅費及び宿泊費等について	飛行機、ホテル等の割引対応(障害者手帳のような物を作り、色々な部分の割引対応をする。)

・在宅医療の推進

困っていること	改善する方法
	がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成及び確保、緩和ケアの推進とも関係して、在宅医療の推進について、介護、緩和、ペインクリニック等の総合的な連携が充実していくことを望む。

・小児がん

困っていること	改善する方法
意味がわからない。	

・がん登録

困っていること	改善する方法
自分は肝内胆管がんの情報を知りたいのだが、どうも資料は肝臓がんと一緒の資料しかない。	病名ごとの統計。患者のその後の追跡調査。

【問4】次回のタウンミーティングに対する要望

- ・がんと闘うばかりではなく、静かに人生を終えるための話もちゃんとやって欲しい。

*回答者について

がん患者・がん経験者:4名、がん患者家族・近しい友人など:4名、地域がん診療連携拠点病院関係者:1名、その他の病院:1名 ※無回答:7名

*回答者のお住い

那覇市:4名、沖縄市:1名、北中城:1名 ※無回答:11名